えるようになった頃から

らのありように深く心し、を徴の立場への理解を求めていまって理解を求めています。

の役割を果たすためには、

であったり、一ます。また、一

こ金刃れることなく、安定そして象徴天皇の務めが常

東京・立川市の国営昭和記

開館10周年を記念して昭

念公園にある昭和天皇記念館

和天皇のご生涯を回顧する写

真展「思い出の昭和天皇」と

題した特別展示を28年12月11

(日)まで開催しています。

87年のご生涯をふりかえ

常設展示で展示しきれな

った数々の懐かしいお写真

を、関連資料とともにご覧い

●12月11日まで開催●

皇居仮宮殿において使われま

した儀式用御椅子を特別に展 示しています。この機会にぜ

展示のテーマと会期は次の

●第4期●

「外国賓客を迎えられて、欧

米を訪ねられて―童心にかえ

28年8月2日(火)~12月

ったディズニーランド―**」**

ひご来館ください。

通りです。

11日 (日)

内)

併せて、戦後、昭和天皇が

ただけます。

的に続いていくことをひとに途切れることなく、安定

りその機能を果たし得なくであったり、重病などによ

なった場合には、天皇の行

ちをお話しいたしました。

国民統合の象徴として

た。天皇が象徴であると共大切なことと考えて来まし

の仕方が、

思いに寄り添うことも

従来のように

ぶった場合、どのよう、務めを果たすことが困

常に国民と共にある自覚を

とも考えられます。 為を代行する摂政を置くこ

| 民に対する理

一解を深め、

成三十年を迎えます。 私も八十を越え、体力の 戦後七十年という大きな 一年後には、

度に具体的に触れることはいう立場上、現行の皇室制 ことを話したいと思いま 控えながら、私が個人と なった場合、

どのような在

進む中、

天皇もまた

高齢と て、これまでに考えて来た り方が望ましいか、天皇と 、天皇もまた高齢とは、社会の高齢化が

る 大皇の望ましい で象徴と位置づけられ 々模索しつつ過ごして来 日本国憲法 在り方を

」かし、いきいきとして社会」が、いかに伝統を現代に生」中にあって、日本の皇室 に深く思いを致し、更に日て、これを守り続ける責任

の安寧と幸て、何より

の務めとし

た。私はこ

て来まし

共に過ごし

高齢によると、「の外科手術を受け、加えて」の外科手術を受け、加えて、「の外が上のことになりますが、二度 えていくかを考えつつ、 日に至っています。 内在し、人々の期待に応

したが、 同時 考えて来ま

事にあたっ

に立ち、その声に耳を傾ては、時として人々の傍ら

は

とを大切に

せを祈るこ

につき、思いを致すようにの先の自分の在り方や務め みを振り返るとともに、こ 面などから様々な制約を覚 ることもあり、ここ数 天皇としての自らの歩

かと案じています。
が、難しくなるのではない
の務めを果たしていくこと 第に進む身体の衰えを考慮 する時、これまでのよう 国にとり、 健康であるとは申せ、

既に八十を越え、

幸

全身全霊をもって象徴

とり良いことであるかにつた、私のあとを歩む皇族に 国民にとり、 (題字・大槻文平初代会長) (隔月1回 10日発行) 発 行 所

〒 190 − 0012 東京都立川市曙町 2-34-13 オリンピック第 3 ビル 電話 (042)522-2451 FAX (042)522-7747 http://www.f-showa.or.jp

エ

ス

カ

ル

ゴ

を

2

0

4 る

Z

が

1)

咪

は

4

7

年

ひとロメモ

昭和46(1971)

報和46(1971)年秋、天皇初の欧州7カ国ご訪問の際に仏バルビゾンのレストランで。この訪欧では合わせて34首お詠

みになられました。

フ

オ

ンテン

ブ

1

0

池

0

に秋

0

E 11

面だって

き

鈴懸樹散る

昭和四十六年

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業とし

て助成を受け作成されたものです。

ŧ

0

ŧ 0

5

سح た

0

く

た

和四 か

六年 る

刻者全員で一分間

の方式

の

(公財)昭和聖徳記念財団

考えるようになりま 行為として、 とりわけ遠隔の地や島々 味において、 私は天皇の象徴的 日本の各地、 、切なものと あり続けることに変わりは の終わりに至るまで天皇で務めを果たせぬまま、生涯

民のために祈るという務め の認識をもって、天皇とし とを私に認識させ、 (しせい)の人々のあるこ共同体を地道に支える市井 も、その地域を愛し、その は、国内のどこにおいてて来たほぼ全国に及ぶ旅 皇后と共に行(おこな) 感じて来ました。皇太子の 時代も含め、これまで私が す。 刻な状態に立ち至った が及ぶことが懸念され 天皇が健康を損ない、 これまでにも見られ 更にこれまでの皇室の 社会が停滞し、

ら、ほぼ二十八年、この間 私が天皇の位についてか

ける多くの喜びの時、

かん)私は、

悲しみの時

人々と

おことばを述べられる 天皇陛下(宮内庁提供) 事に関わる人々、とりわけ時に進行することから、行時に進行することから、行ます。その様々な行事と、ます。その様々な行事と、ます。その様々な行事と、 焉に当たっては、重い殯 その後喪儀(そうぎ)に関 ぼ二ヶ月にわたって続き 残される家族は、 (もがり)の行事が連日

71年目

全国戦没者追悼式==

0

誓

陛下、「深い反省」今年も

だろうかとの思いが、胸に避けることは出来ないもの 得ません。こうした事態を 去来することもあります。 い状況下に置かれざるをざれる家族は、非常に厳

> 陛下は全国戦没者追悼式 迎えた八月十五日、

両陛下、

安倍晋三首相や

終戦から七十一年目を

道館で開かれた政府主催

の追悼式には、天皇皇后

口 2 0

年に東京大会が第二回と

ら三日間、約五千五百人

大会」は十月二十二日か

今年の「希望郷いわて

ました。パラリンピック

は昭和三十九(一九六四)

長くお心を寄せて来られ ては、天皇皇后両陛下が

目的としています。

して開かれましたが、皇

団体七競技とオープン四 が参加し、個人六競技、

競技が実施されます。

4面に続く

に臨まれ、今年も「深い

は、無理があろうと思われてなく縮小していくことにいる。 愛をもってなし得たこと 天皇の高齢化に伴う対処 幸せなことでした。 人々への深い信頼と敬 国事行為や、 未来を築いていけるよう、ような時にも国民と共にあった。これからも皇室がどの このたび我が国の長い天皇しません。そうした中で、 皇は国政に関する権能を有に、憲法の下(もと)、天 の歴史を改めて振り返り 始めにも述べましたよう 憲法の下(もと)、 まれたお言葉を述べられ 反省」との表現が盛り込

この日、

東京の日本武

Ļ

正午の時報とともに

にしました。

飾られた式壇に着かれ、

相が式辞を述べたあ

参列。両陛下が菊の花で 戦没者遺族ら約六千人が

展問示年

思

昭

天

皇



全国戦没者追悼式にご臨席の天皇 皇后両陛下=8月15日正午前、東

京 • 日本武道館(産経新聞社提供) とうをささげました。 続いて、

禍に倒れた人々に対し、 新たにいたします。ここ 惨禍が再び繰り返されな とともに、今後、 族を思い、深い悲しみを に過去を顧み、深い反省 た数多くの人々とその遺 かけがえのない命を失っ さきの大戦において、

向け、 列者が式壇に菊の花を手 お言葉を述べられまし 民と共に、戦陣に散り戦 層の発展を祈ります」 世界の平和と我が国の一 心から追悼の意を表し、 いことを切に願い、全国 式典ではこのあと、 戦争で亡くなった 参 オデジャネイ

り、平和への誓いを新た 約三百十万人の冥福を祈 月二十一日閉幕。 を獲得し歓喜のう 最多の四十一 本が金十二個を含 は引き続き九月七日から 16オリンピック 個のメダル リオで ちに八 む史上 は、日

天皇陛下 戦争の

阿陛下がお心寄せる障害者スポーツ

リオのパラリンピック熱戦展開

福祉祭ながさき大会(ね

りんピック長崎201

れる運びとなりました。

者スポーツ大会」が開か

岐阜県で「全国身体障害 い」と話され、翌四十年に でも毎年行ってもらいた

害者スポーツ大会、さら 育大会と第十六回全国障

第二十九回全国健康

岩手で第七十一回国民体

このような大会を国内

そして大会終了後、 一覧になりました。

方、国内では十月に

が始まりました。 2016パラリンピック 障害者スポーツの祭典、

陛下とお揃いで競技会を

誉総裁を務められ、皇后

国内では来月、岩手で大会開く 6) が開催されるなど

番』を迎えます。

障害者スポーツについ

害に対する理解を深め、

障害者の社会参加推進を

"スポーツ・健康の秋本

スポーツの楽しさを体験

障害者が競技を通して

するとともに、国民の障

究助成に

ます。大会では陛下が名 者を励まされたといわれ の大会開催に向けて関係 太子同妃両殿下時代にこ

関する世界的学究者とし る方を募集しています。 (回目)から、生物学に一成三年度(今回で二十 術研究助成に応募され この学術研究助成は、 請書をコピー、「学術研下に)で学術研究助成申 ムページ(URLは題字 に助成しています。 件につき五十万円を上限 和聖徳記念財団のホー 助成をご希望の方は、

応募を 第 26 回

(系統分類学)及びそれての昭和天皇の研究分野 推進・発展に寄与するこ 究を奨励し、学術研究のに関する生物学分野の研 い。これである。オームペン・ジャン・ジャン・ジャン・オームペー の 先など詳細は、ホームペザ を。 送り先、問い合わせれ (土) 必着でお申し込み 究」係に十二月十日